

# 奥会津だより



今も暮らしに生きる民具を6回シリーズで紹介します。—No.6 ワラとヒロロの民具—

## 山仕事の民具

左からオソフキ(主につま先の保護と防寒用のワラ靴)、ハバキ(山仕事用の脛当て)、ショイカゴ(ヒロロで編んだ背負い籠)、アミガサ(日除けやイバラ除けにかぶるワラの笠)。

いずれも山仕事の折に身につける道具である。雪の山ではワラの履物が欠かせない。ハバキは、雪掘りやソリ引きの際にも脛を保護する道具として必需品だ。

雪国の山仕事には、こうした道具で身支度を整える。

満開のブルーケともらさる春の風

本名 香澄さん (朝日中)

第41号

— 2007年春 —



さりげなく身の回りにある自然の宝物を紹介していきます。

# 早春から春への風景



①



④



②



③

暖冬に戸惑った奥会津も、次々と生まれる春の息吹を確かめながら、野良仕事の準備が始まっている。残雪は日ごとに後退し、雪解け水の流れる傍らから野山に色彩が蘇る。  
 早春の季節をひたむきに過ごせたのは、こうして必ず巡ってくる晴れやかで彩り豊かな春があるからだ。

- ① 田子倉湖の春は、残雪の中で鮮やかに芽吹くブナの緑が美しい。(只見町・写真/山浦芳明)
- ② 伊南川を覆うような山桜が、つかの間の春を彩る。(南会津町伊南・写真/山浦芳明)
- ③ 水芭蕉の周囲は桜の花びらが散り敷いて、白を一層際立たせる。(昭和村・写真/山浦芳明)
- ④ 早春の山は雑木の緑と山桜、コブシなどの花々でまどろむような柔らかさを纏っている。百の緑は日々色を変えて、山が大きく見えるのもこの頃だ。(昭和村・写真/高柳芳永)
- ⑤ ブナ林の春は根元から始まる。根回り穴の広がり、ブナの呼吸だ。(檜枝岐村・写真/宮崎晃)



⑤

## 奥会津つれづれ

詩人・茨木のり子さんの「自分の感受性くらい」という詩がある。『ぼさばさに乾いてゆく心を／ひとのせいにはするな／みずから水やりを怠っておいて／気難しくなってきたのを／友人のせいにはするな／しなやかさを失ったのはどちらなのか／苛立つのを／近親のせいにはするな／なにもかも下手だったのはわたくし／初心消えかかるのを／暮しのせいにはするな／そもそもが／ひよわな志にすぎなかった』初めて知ったとき、まるで自分のことを言われているように、胸が苦しくなったのを覚えている。

人間関係や仕事がうまくいっているときは、自分に余裕があつて少しのことでは落ち込んだりしない。けれど忙しい日が続いて思うように時間が過ぎせなかつたり、大切な人とすれ違いがあつたりすると、何でうまくいかないんだろう、どうして自分ばかり、と思つてふと愚痴をこぼし、うまくいかない原因を誰かのせいにしていて自分がいる。

この詩を作る素は、戦争の最中に生まれたたという。祖国のために戦い命を落とすことが、国民としての名誉であるという時代に彼女は疑問を持ちながら生き、終戦を迎え、その時の自分の感覚は間違つてはいなかったと感じたという。同時に自分以外の何かに自分を抑圧されることのないようにしなければ、と思つたのではないだろうか。目には見えない、触れることのできない私の感受性は、他の誰でもない私自身で作っているのだ。『駄目なことの一切を／時代のせいにはするな／わずかに光る尊厳の放棄／自分の感受性くらい／自分で守れ／ばかものよ』(沁)



# 新しい郷土料理で地域に元気を

―楠 正次さん(名代菊水当主 南会津町館岩 51歳)



「正次、これはうめえぞ。これこれ、この味」  
 法事の膳につけた三切れの「にしんの山椒漬」が、いつもは辛口の親戚の口にあったようだ。

「家のはあさん何も作らなくなって、盆や正月たまに家に帰ってきてても、ふるさとの味が並ばなくなって、楽しみがなくなっちゃったよ。漬物も隣からもらってきてるんだからなあ、まいったよ。」

最近、こんな話をよく聞くようになった。

にしんは山椒漬だけでなく、季節によっては鮮漬や赤かぶ漬にも入れた。各家がにしんの漬鉢を必ず持つていて、田植えや祭りの御馳走だった。

にしんの山椒漬だけではない。ことじ、つむつかり、かおした飯、かんぷら、栃もちなど、古くから当たり前に伝えられた季節ごとの郷土料理を食する機会が減ってきた。

私の家にも爺さんがいて、山菜、きのこなどの自然の恵みを取り、ばあさんが料理した。それこそ毎日同じ料理が大皿に山盛りになり、並び子供ながらに閉口した



ものであったが、今は家族数も減り何の料理でも鍋一杯に作ることも少なくなった。まして独り暮らしの老人世帯ならそれこそ無駄になる。作ってあげたい人が居ないから作らない。引き継がなくてはいけない人たちが作れないのだという矛盾が生じている。

私は旧館岩村の木賊温泉から板前を志し、ふるさとに戻り借家で店を構えた。戻った当時の館岩村は、新しい観光地として一躍脚光を浴びていた頃でとにかく元気があった。この村に何でこんなに人が来るんだろうと思いつつ年月が過ぎ、いつの間にかその元気を失っていたことにも気がつかずにいた。

一気に波がひいた。それでも、少ないながらもこの地域に楽しみを求め何度も足を運んでくれる人がある。そしてせつかく来てくれる人たちを大切にしようと、今まで以上に人の顔が見える仕事をしようとの思いがある。

地元のもので勝負しようと集落を歩き、名人といわれる人から教えを頂きながら、気持ちも新たにお品書きに郷土料理を入れた。

その一方で、「身欠にしん」を刺身や寿司にするなど、昔ながらの素材を新しい形で提供する試みにもチャレンジしている。

岩魚三昧、漬物三昧、蕎麦三昧、この地域の豊かな恵みで、地域のひとと一緒に元気な館岩を取り戻せたらと、夢は広がる。

(談)



## 只見線物語⑥

奥会津の暮らしを見つめてきた只見線。列車が紡ぐ四季の風景。

その無人駅の外壁は、駅前に並ぶ桜の木肌と、手触りがどこか似ている気がします。5月初旬、長い冬を耐えた桜が一齐に花開きます。ひらひらと風に舞う花びらは、時折やってくる列車に、手を振って応えているかのようです。それは、古い木造駅舎そのものが「花咲いた」ような光景でした。

絵・文 松本 忠

1973年生まれ イラストレーター  
 東北地方の路線を中心に、全国各地の抒情性溢れる鉄道沿線風景を描いている  
 共著：『のんびり行く只見線の旅』（歴史春秋社）

「華やぎの季節」  
 只見線・会津中川駅  
 (大沼郡金山町)





# 冬の“ものづくり”と生活工芸



奥会津だより  
地元記者  
三島町  
小松順太郎さん

この冬は積雪が極端に少なく、80歳を越した古  
老の方も記憶にないという程の暖冬ですが、人々  
は、外での仕事が出来ないこの時期に、農や山仕事  
或いは普段の生活に必要な縄や蓑或いは籠やザル  
を作りながら、厳しい冬を過ごしてきたのです。別  
の視点で見ると、冬は、この地方にとっては、“もの  
づくり”の貴重な時間であったのです。その“もの  
づくり”の技を絶やさないうで後世に伝える、技を  
生かす今の時代にあった工芸品を生み出す、“もの  
づくり”をすることにより、生活に張りを持たせ  
更には高齢者の生きがいづくりにも結びつけるこ  
うの趣旨を持って三島町が取り組んだ「生活工芸  
運動」は、25年の時を経て、国の伝統工芸品に指定  
されたということもあり、三島町といえば、生活  
工芸の町“と言われる程になりました。



～ヒロロのバックつくりにもむ～

3月17日(土)・18日(日)には、町内でものづくり  
をする100名  
前後の方々が冬  
の間につくった  
作品を展示・即  
売する生活工芸  
品展が三島町生  
活工芸館で開催  
されます。手間  
ひまかけて作っ  
た1,000点  
近くの品が並ぶ  
様は壮観で一見  
の価値がありま  
す。

# 『玉梨温泉』



奥会津だより  
地元記者  
金山町  
滝沢薫さん



～玉梨温泉『恵比寿屋旅館』～

奥会津には各  
地自慢の温泉  
があります。大  
金山町にも『大  
塩温泉』『湯倉  
温泉』『玉梨八  
町温泉』など、  
とてもいい湯  
が湧いていま  
す。  
そのひとつ、  
JR会津川口駅  
から昭和村へ  
向かい車で10  
分、橋のたもとにある『玉梨八町温泉』をご紹介します。

2軒ある温泉宿はいづれも、源泉掛け流しの炭酸  
水素塩泉で温泉の香りしかしらない赤茶けた『にご  
り湯』です。  
効能はリュウマチ・神経痛など。飲めば胃腸によ  
く、二日酔いにも大変よいそうです。  
飲食もできる町営浴場があり、昭和44年頃で  
きた2ヶ所の共同浴場は、三畳ほどの湯ぶねで24時  
間誰でも利用でき、料金は気持ち次第。地元の人  
の交流の場になっています。  
露天風呂の眼下には『野尻川』が流れ、雪で縁取  
られた木々を見ていると遠くへ旅に来た気分にな  
ります。  
皆さんも旅人気分を味わってみませんか？

## 奥会津イベント情報

### 昭和 からむし織体験生・研修生作品展



からむし織の織  
姫体験生が一年が  
かりで作り上げた  
作品と、研修生(2  
年目以降の織姫)の  
作品が展示されま  
す。まだまだ未熟な  
が、精進込めて織  
り上げた作品を是非  
ご覧下さい。  
◆日程  
平成19年3月  
15日(木)～22日(木)  
午前9時から午後  
5時まで  
(19・20日は休館)

### 昭和 博士山水芭蕉まつり



水芭蕉と白樺に囲  
まれた遊歩道があ  
り、持設テントでは  
豚汁、おでん、おに  
ぎり、飲物などの販売  
のほか、来場者全員  
に甘酒をサービスし  
ます。  
◆日程  
平成19年5月4日  
(金)  
午前10時から午後4時

### 昭和 からむし市

◆問合せ  
からむし工芸博物館  
☎0241(58)1677

◆日程  
平成19年4月28日(土)～5月6日(日)  
午前9時～午後4時30分

◆場所  
大沼郡昭和村  
からむし織の里「からむし工芸博物  
館」ロビー

4月1日(日) 溪流釣り解禁  
4月14日(土) 千葉之家花駒座新春歌舞伎公演  
\*檜枝岐村 (新春檜枝岐歌舞伎公演)  
4月28日(土) トロッコ会津只見号運行(会津若松・只見間) 4月30日まで

\*昭和村 奥会津昭和の森 キャンプ場オープン(予定)  
\*金山町 沼沢湖畔観光施設オープン  
\*只見町 青少年旅行村「いいの森」キャンプ場 川井織之助記念館 川の歴史博物館  
\*三島町 美坂高原オープン(4月下旬予定)  
\*柳津町 久保田三十三観音まつり  
4月29日(日)

5月  
\*三島町 てわっさの里まつり (連休中を予定)  
\*三島町 鬼子母神例大祭(5月5日まで)  
\*南会津町南郷 高清水自然公園オープン(予定)  
5月12日(土) \*檜枝岐村 愛宕神祭礼奉納歌舞伎  
5月20日(日) \*柳津町 博士山山開き  
5月24日(木) \*檜枝岐村 尾瀬山開き(御池)

## 方言クイズ クイズに答えてプレゼントを貰おう!

問題：次の方言の意味は何でしょう？

### 「かんぷら」

ヒント：『豊かな山村の暮らし』を参照。

正解者の中から抽選で3名様に、「松本忠さんの額絵」をプレゼントいたします。

●応募方法：官製ハガキに奥会津だよりの感想、住所、氏名、電話番号を明記の上、答えをお書きください。

●あて先：〒969-7511 福島県大沼郡三島町大字宮下中乙田 979 奥会津書房 宛

●応募締切：3月31日消印有効

※当選者の発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます。  
※クイズの答えは次号42号で発表いたします。

◎40号「さすけねえ」の答え：大丈夫 たくさんのご応募ありがとうございました!